

幌延 ICT 教育通信

発行：幌延情報教育センター

GIGA環境での町内学校の取組 あらゆる場面で1人1台端末 学校だけでなく家庭でも

前号の発行が昨年5月のコロナウイルス感染症の影響で、臨時休業を強いられ、オンライン授業等のICT活用に模索していただいた頃ですが、あれから1年が経過

し、町内のICT環境は、GIGAスクール構想に基づく環境整備により、がらりと変わりました。1人1台端末のChromebookを授業は勿論、行事や部活、生徒会の他、持ち帰りでの家庭学習、教職員研修等、様々な場面における活用が推進されております。町内のICT活用状況は、例えば…

- Google Workspaceの活用 ⇒ Classroom、サイト、カンパニー、Jamboard
- ドリル教材の活用 ⇒ 「ジャストスマイルドリル（小）」、「Qubena（中）」
- プログラミング教育での活用 ⇒ 「Scratch」、「microbit」、「まなっぴ」
- タイピング練習での活用 ⇒ 「寿司打」「タイピングーズ」
- デジタル図書の活用 ⇒ 「School e-Library（中）」

この他にも沢山の場面でICTを活用した取組を実践いただいているところです。

こうした日々の取組（指導）を通して、町内の児童生徒のいわゆる「**情報活用能力**」が育成されており、実際に「Chromebook」等のICTを活用した授業で、子どもたちに身に付いている知識や技能、考え方が、以前とは見違える程と感じられているのではないかと思います。



11/22 プログラミング 公開授業（幌小）

「情報活用能力」の育成に向けて①

町内3校で共通の「年間指導計画」等を作成

1人1台端末の活用が1年目ということもあり、現在実践いただいている取組は、町内3校で共通のものもあれば、独自のものもあるというのが、実態です。それを踏まえて、幌延情報教育センターでは、次のように考えております。

◎課題

⇒町内児童生徒の「**情報活用能力**※」を計画的に身に付けるための系統性のあるカリキュラムが作成されていないこと

※「ICT活用スキル」「情報活用スキル」「プログラミング的思考」「情報モラル」

◎改善策

⇒町内3校で共通の「**年間指導計画**」「**系統表**」を作成すること

どの段階（学年）でどのような「情報活用能力」を身に付けさせるのか、身に付いているのかを確認できることから、教科横断的な指導や、小・中の系統的な指導がしやすくなり、児童生徒の立場においても、学びのつながりが感じられるようになると思います。

作成には、各校の先生方のご協力が不可欠と考えております。詳しくは、12月中旬に各校の情セ所員の先生からこの作成に係る説明（ICT研修）を行っていただく予定です。

「情報活用能力」の育成に向けて②

12/22(水)15:30～

オンライン研修の実施

作成の目的やポイント等について確認するための町内全体研修を実施いたします。講師には、文科省の「ICT活用教育

アドバイザー」となられている札幌市立発寒南小学校教頭の朝倉あきくら先生を、オンライン研修にお招きいたします。

ミーティング情報は案内文書に記載し、追って各学校に送付いたします。

町内の先生方には、日頃より、町内情報教育推進のご尽力、ご協力いただきありがとうございます。持ち帰り関係をはじめ、流動的な整備にご配慮いただき感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。（情セ事務局 椿）



朝倉先生